

年 組 名前：

問1

「時の記念日」を前に実施した調査結果から、  
「待ち時間の意識」は、5年前と比較すると、  
どのように変わりましたか。

.....

問2

変わった理由を、どのように分析していますか。

・影響

.....

.....

・可能性

.....

.....

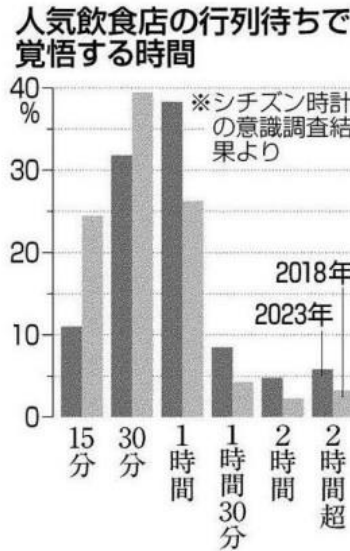
問3

人気飲食店の順番待ちでは、最多人数が  
どのように変化しましたか。また、「15分」と  
回答した人の率は、何ポイント減少しましたか。

- ..... → .....
- ..... ポイント減少した

行列覚悟の人気店、1時間でも並べちゃう？  
6月10日の「時の記念日」を前に、シチズン時計(東京)が20〜50代の働く男女に生活のさまざまな場面での待ち時間への意識調査をした結果、5年前と比べてイライラを感じるまでの時間が延びたことが分かった。担当者は、若者を中心に「好きなこと・モノに時間をかけたい」と考え方が広まっていると分析している。

待ち時間 許容できるのは...  
人気店なら「1時間」OK



ゲームや動画などスマートフォンや動画などのコンテンツが充実し、インターネット予約やモバイルオーダーで待ち時間が分かるようになったことが影響している。新型コロナウイルス禍で生活リズムが変わった可能性もある。

調査結果によると、行列となつている人気飲食店の順番待ちで覚悟する時間は2018年には「30分」を選んだ人が39%で最多だった。今回は「1時間」が38.3%で首位だった。逆に「15分」は24.5%から11.0%に減少した。テーマパークの人気アトラクションでも最多が「30分」から「1時間」に延びた。特に20代では他の世代より多い22.0%が「2時間超」と回答した。ランチャイムの飲食店で空席を待てる時間は前回「10分」が最多だった。今回は「15分超」が41.3%で最も多かった。ファストフード店で商品が出てくるまで待てる時間も「5分超」が多で、前回の28.0%から43.8%に増えた。調査は4月にネット上で全国の400人に実施した。

(2023年5月30日付 山梨日日新聞 20面)